

大学の先生なら 来週建てよ

情報交流会セミナー

建築が社会の為に 出来ること

もし明日、自分の地域で災害が起きたら、
住まいを失った人々をどう支えるのか。

講師

北川啓介 教授

名古屋工業大学

2026年日本建築学会賞受賞
インスタントハウスを通じて、
社会的貢献を行っている。



2026年

10月28日(水)

15:00~17:00

17:00~18:00 名刺交換会

【方式】

対面方式(定員30名)

日本建築センター3階会議室

オンライン方式(定員80名)

【受講料(税込)】

一般 8,800円

購読会員 3,300円

正会員 2,200円



申込期限： 2026年10月22日(木)

●お申し込みは、右下のQRコードまたは以下のURLからお願いします。

(<https://www.bcj.or.jp/seminar/detail/828/>)

●受講申し込みされた方には、申込み後に受講者専用ページのURLをお知らせします。講義資料は、10月26日(月)までに受講者専用ページに掲載しますので、セミナー当日までに各自ダウンロードをお願いします。

●セミナー終了後、名刺交換を兼ねた懇親会(～18:00)を予定いたします。対面方式でご受講の方は引き続きご参加いただけます。

●オンライン方式で参加の方へは入室用IDを、10月26日(月)にメール送付します。

●建築CPD情報提供制度認定プログラム・JSCA建築構造士更新評価対象講習です。

主催：一般財団法人 日本建築センター 問合せ先：情報事業部

TEL:03-5283-0477

Email:jyouhou@bcj.or.jp

近年、自然災害の激甚化や世界的な紛争の長期化により、住居の重要性が改めて問われている一方で、建築においては設計技術や建設技術の高度化が進むなか、建築が本来果たすべき社会的使命について考える機会は決して多くありません。

本講演では、「地球上で家に困る人々が快適で丈夫な家をもつあたりまえを実現する」を目指し、国内外の被災地や難民キャンプ等で住環境支援に取り組む北川啓介教授をお招きします。

東日本大震災の避難所で出会った小学生の言葉を原点に開発されたインスタントハウスの研究開発や実証実験、国内外での支援活動を通して、災害時の住環境のあり方、建築の社会的使命、そして行政と建築技術者に求められる役割について考えます。

◆講演概要◆（予定）

- ・熊本地震の現場で、被災者や行政とどのように関わり支援を進めたのか
- ・被災地で直面した課題と行政・建築技術者の連携
- ・次の災害に備え、今だからこそ考えておきたいこと
- ・インスタントハウスはどのように生まれたのか（研究開発～実証実験まで）
- ・国内外の被災地で、インスタントハウスはどのように活用されてきたのか
- ・これまでの経験と知見から生まれる、現在進行中の新たな開発



- ・震度6強の地震でもくずれない
- ・風速80m/sにも耐える強度がある
- ・外側のテントシートは引張りに、内側の断熱材は圧縮に。

北川啓介 | Keisuke KITAGAWA

1999年ニューヨークの建築設計事務所にて建築設計に従事。

2001年名古屋工業大学大学院工学研究科社会開発工学専攻博士後期課程修了、博士（工学）。

同大学助手、講師、准教授を経て、2018年から現職。

約20年の国内外での建築設計や建築教育の経験を経て、知財をもとにした未来志向の建築や都市を考案し、実用化した上での事業化を推進。

2017年米国プリンストン大学客員研究員。建築構造物領域のプロフェッショナルであり、インスタントハウス技術の考案者。受賞歴に、科学技術分野の文部科学大臣表彰など

最近は、2026年 建築学会賞受賞